

## 1. 略歴

1989年4月	東京大学教養学部理科一類入学
1993年3月	東京大学教養学部教養学科第二（フランスの文化と社会）卒業
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（仏語仏文学専攻）入学
1995年3月	同 修了
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（欧米系文化研究専攻）進学
1995年10月	パリ第三大学博士課程入学（フランス文学・文化）
2000年7月	同 博士学位（文学）取得
2001年3月	東京大学大学院博士課程単位取得退学
2001年4月	北海道大学大学院文学研究科 助教授
2005年4月	早稲田大学理工学術院理工学部 助教授
2007年4月	早稲田大学理工学術院創造理工学部 准教授
2010年4月	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授
2012年4月	京都大学大学院地球環境学堂 准教授
2015年4月	京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授
2016年4月	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2021年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

フランス近現代文学

### b 研究課題

- (1) ジョルジュ・ペレック研究。制約下の創作や日常の探求という観点から検討している。
- (2) レーモン・クノー研究。特異な〈知〉の概念の検討。
- (3) 都市や集合住宅をめぐるドキュメンタリー文学の研究。

### c 概要と自己評価

(1) ペレックの文字落とし小説『煙滅』において、ピオイ＝カサーレスの小説『モレルの発明』が構造的な発想源として機能していることを示した仏語論文を発表した。また、経路があらかじめ定められた移動の表象について考察し、仏語論文として刊行した。

(2) クノーとペレックがフロベールによる百科全書的小説をいかに受容し自らの創作に取り入れたかを考察する学会発表を行い、論文として刊行した。

(3) ジュリアン・グラックの都市論『ひとつの町のかたち』について、そこに認められる変化を肯定する価値観について論文を発表した。また、集合住宅を主題とするドキュメンタリー文学を〈調査〉の潮流の中に位置づける発表を行った。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、松澤和宏・小倉孝誠編、『フローベール 文学と〈現代性〉の行方』、水声社、2021.10

#### (2) 論文

塩塚秀一郎、「ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』における変化の肯定—モノメントと空き地をめぐる—」、『文学と環境』、no. 24、p.30-38、2021.6

Shuichiro SHIOTSUKA、「Bioy Casares, source de l'imaginaire lipogrammatique」、『Cahiers Georges Perec』、no. 14、p.313-322、2021.10

Shuichiro SHIOTSUKA、「La potentialité des voyages contraints : Bon, Gracq, Butor」、『Contemporary French and Francophone Studies』、vol.25,no.5、p.648-656、2021.12

#### (3) 書評

フィリップ・フォレスト『洪水』書評、『図書新聞』、2021.2.13

(4) 学会発表

国内、塩塚秀一郎、「物語の彼方と手前：クノーとペレックにおけるフロベールの遺産」、日本フランス語フランス文学会 2021 年度春季大会ワークショップ「生誕 200 年 フロベールを読み直す」、上智大学（オンライン開催）、2021.5.23

国内、塩塚秀一郎、「調査の文学と集合住宅という装置：現代文学の結節点をめぐって」、「文学としての人文知」第 8 回「文学を問う知／知を問う文学」、早稲田大学（オンライン開催）、2021.12.18

**3. 主な社会活動**

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会幹事長、2021.6～2022.6

文学・環境学会評議員、2019.4～現在

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

小西国際交流財団日仏翻訳文学賞選考委員、2019.4～現在